決勝は２年前のリベンジだ！

第 25 回総理大臣杯・決勝（2001 年 7 月 8 日・14 時・長居スタジアム）

駒大１－２阪南大

▼得点者

【阪】48 分：**深谷友基**（松浦宏治）

【阪】51 分：山岡大（**桑勇基**）

【駒】67 分：巻誠一郎（ＰＫ）

▼駒大（シュート数２３）

ＧＫ桜井繁

ＤＦ**小林亮**、小林久晃、津村典明、三上卓哉　ＭＦ**中後雅喜**、木村誠（74 分：尹成熙）、**中田洋介**（63 分：金位漫）、森田真実（81 分：**鈴木祐輔**）

ＦＷ巻誠一郎、深井正樹　ＳＵＢ新沼泉、角屋博文、田中信成、古川健介

▼阪南大（シュート数８）

ＧＫ園田友彦　ＤＦ木村卓也、**深谷友基**、**南明宏**　ＭＦ藤井一昌、**永宋佳祐**（44 分：寺田武史）、上岡英治（77 分：徳留新人）、仲井正剛、**桑勇基**（89 分：**後藤祐司**）　ＦＷ松浦宏治、山岡大　ＳＵＢ**梅村芳生**、藤原芳明、末吉祐太、川村亮

※白字の名前は現在の３、４年生

KOMAZAWA × HANNAN

今日の試合は２年前の雪辱戦となる。圧倒的に攻めながら勝てなかったあの日の悔しさは忘れていない。小林亮（写真）らがリベンジに燃える

【上】この日はトップ下でプレーした中後。幅広い動きで積極的に攻撃に絡んだ【下】途中出場の原。効果的な交代かと思われたが、ゴールならず

7 月 11 日　13:55　長居第二陸上競技場		
駒大（関東４）	0－0 0－0 0－0 0－0 5 PK 4	福岡大（九州）

ＰＫ戦経過（◯内数字は背番号）

【駒】1⑥◯2④×3⑨◯4⑧◯5⑤◯6⑲◯

【福】1㉗◯2⑩◯3⑨◯4⑳◯5③×6⑥×

KOMAZAWA	FUKUOKA
GK①牧野利昭(2)	GK①杉山　哲(4)
DF④小林　亮(3)	DF③加藤秀典(4)
DF㉔廣井友信(1)	DF④長野　聡(3)
DF⑤鈴木祐輔(3)	DF⑥井上星童(4)
DF②桑原　靖(2)	DF⑲登尾顕徳(2)
MF⑦田中信成(3)	MF⑦小井手翔太(4)
(98 分⑬筑城和人(1))	(66 分⑨林　幹貴(3))
MF⑩橋本早十(4)	MF⑬林　賢志(3)
(72 分㉖根本真吾(2))	(83 分⑪和泉徹也(3))
MF⑧中田洋介(4)	MF⑳衛藤　裕(2)
MF⑥中後雅喜(3)	MF㉗川田和宏(3)
FW⑱巻　佑樹(1)	FW②奈良崎寛(4)
(69 分⑲原　一樹(1))	(78 分㉕吉田慎一郎(4))
FW⑨赤嶺真吾(2)	FW⑩田代有三(3)
S　U　B	S　U　B
GK㉑蒲原隼一郎(3)	GK㉑赤星　拓(1)
DF③栗原健次(3)	DF㉙大野史裕(1)
MF⑰岩本哲也(3)	MF⑭岡田昌司(3)
FW⑪関　光博(3)	FW⑮高橋大輔(2)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	乾　真寛

警告(C)／退場(S)

【駒】39 分：小林亮 **1**(C)

【福】91 分：吉田慎一郎(C)、92 分：長野聡(C)

[シュート]13:6[枠内シュート]4:2
[決定機]5:1[ＧＫ]9:15[ＣＫ]13:6
[ＰＫ]1:0[直接ＦＫ]5:24[間接ＦＫ]2:7
[ＯＳ]2:7[主審]梅本博之[観衆]約 150 人

※上記データは全て左側の数字が駒澤。枠内シュート、決定機は本誌記者による記録です

【左】後半 39 分、ドリブルで仕掛けた鈴木が倒されＰＫ獲得！しかし中田のキックは相手キーパーに止められてしまった…【上】「ＰＫ戦までみんながんばってくれた。感謝したい。決勝は自分が引っ張って優勝したい」と語った中田

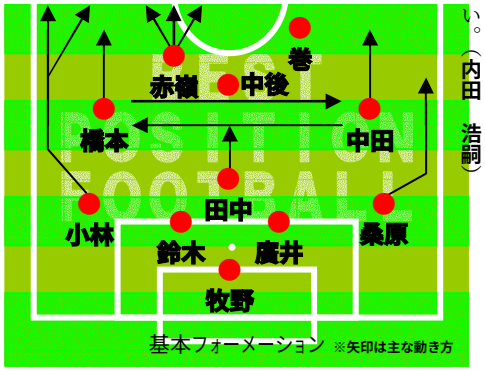
決勝の舞台へと駒を進めた。

わらずフィニッシュに精度を欠き、勝負はついにＰＫ戦へ。

ＰＫ戦は両者、1本目を決めて迎えた2本目。**小林**が放ったシュートは、この日再三好セーブを見せてきたＧＫ**杉山**に止められてしまう。ＧＫの**牧野**は「焦りはなかった。あと4人のなかでだれか一人を止めればいいと思っていた」とこの時の心境を語った。この後は両者ともきっちりと決め、福岡大5人目のキッカーは**加藤**。決められれば終わりという場面で「前の4本とも、全部自分が思っている方と逆だったので、この時は自分の思っている方と逆に飛んだ」という**牧野**。その読みは見事的中し、駒大を絶望の淵から救った。このＰＫストップが福岡大に傾いていた流れを駒大にグイッと引き寄せた。6人目、駒大は**原**がきっちり決めたのに対し「相手は完全にびびっていた」（**牧野**）という福岡大のシュートはゴールをとらえきれず右へ。結局、自分たちを最後まで信じ、勝負をあきらめなかった駒大が3年連続で

勝因として大きいのは、まず守備陣の成熟だろう。大臣杯では未だに無失点。「みんなが駒大のサッカーを徹底してやっているのがその要因じゃないですかね」（**廣井**）、「今大会は1対1の場面とかでも強いし、要所、要所で相手に好きなことをやらせていない」（**牧野**）と選手達は話す。そして、精神的な充実もこの試合からはうかがえた。勝負を分けたのは精神的な強さであった。駒大はＰＫ失敗後も相手を恐れることなく攻め続けた。一方、福岡大は5人目のＰＫを止められた時点で動揺してしまった。この勝利は偶然ではなく必然的に生まれた勝利と言っても過言ではないだろう。

決勝の相手は、奇しくも2年前に同大会の決勝で破れた阪南大。「何かの縁を感じる。ぜひリベンジしたい」と**鈴木**。あの日の悔しさを知る3、4年生と、成長著しい若い力がうまく融合した時、駒大に歓喜が訪れるに違いない。（**内田　浩嗣**）



基本フォーメーション　※矢印は主な動き方

KOMAZAWA × FUKUOKA